令和3年度 家庭

学校番号	2001

教科	科目	必修／選択	単位数	指導学年
家庭	フードデザインA	選択	1	第3年次前期

教科書・副読本・問題集 No.	分類	教材名
①	教科書	フードデザイン　food　design
②	副読本	ニューライブラリー家庭科 資料+成分表2019
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		
⑪		

学習の到達目標

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を身につける。また、食生活を総合的にデザインする能力を身につける。

教科からのメッセージ（学習方法 等）

調理実習を通して食品の知識と技術の習得、マナーに配慮した食生活、食育と環境を意識した学習、知識を身につける。

特記事項

実習費として2,000円徴収。食物栄養系進学希望者は選択することが望ましい。

学習評価（評価規準と評価方法）

観点		観点の趣旨	主な評価方法
A	関心・意欲・態度	食生活を取り巻く諸課題について興味・関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組むとともに、積極的、実践的な態度を身につけている。	調理実習、ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習・発表、課題ﾚﾎﾟｰﾄ、ﾌﾟﾘﾝﾄ学習
B	思考・判断・表現	食生活において直面する課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術をもとに、食生活全般に関わることに対して適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	調理実習、ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習・発表、ﾌﾟﾘﾝﾄ学習、小ﾃｽﾄ
C	技能	食生活で必要とする基礎的・基本的な技術を身につけ、食生活全般に関するさまざまな活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用できる。	調理実習、ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習・発表
D	知識・理解	食生活で必要とする基礎的・基本的な知識を身につけ、食生活や社会全般の社会的な意義や役割を理解している。	調理実習、ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習・発表、課題ﾚﾎﾟｰﾄ、小ﾃｽﾄ
E			

年間（学期間）指導計画

学期	期間	教材	単元	配当時間	学習内容	評価観点	単元目標（CAN-DO）／単元（題材）の評価規準	主な学習活動	主な評価方法	評価
前期	4月・5月	① ②	食事の意義と役割 食をとりまく現状 調理の基本	8	からだをつくる栄養素としての食事(ABD) 食生活を豊かなものにする(ABD) ライフスタイルの変化と食生活(ABCD) 持続可能な食生活を目指して、食糧	A B C D	自分自身の食生活の現状、家族の食生活の現状より自分自身の健康と食について考え、問題点を見つけ出し解決する能力を身につける。(ABD) 食生活の伝承を学ぶことにより「おもてなし」の心を育む。(ABC) 調理実習を通して調理に関する専門的な知識と技術の習得を目指すとともに、各食品の調理上の特性を学ぶ。(ABC) 食品ロス、フードマイレージ、SDGsなど環境と食生活について学ぶ(AD)	調理実習 レポート プリント学習	提出物（プリント） 提出物（レポート） 実習評価（技能・出席等）	5 4 3 2 1
	6月・7月	① ②	からだのしくみと食べ物 栄養素の役割 食品の特徴と性質 調理の基本	8	栄養素の役割（炭水化物・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラル）(AD) 食品の特性と調理性、調理操作(ABC) 食の安全性（AD）	A B C D	五大栄養素の役割と特性を理解するとともに、体内での働きを利用した献立作成、食べ方や調理方法を考える。(ABCD) 世界の食文化に触れる。(AC) 調理実習を通して調理に関する専門的な知識と技術の習得を目指すとともに、各食品の調理上の特性を学ぶ。(ABC) 食中毒などについての知識を学ぶ（AD）	調理実習 レポート プリント学習 技能訓練	課題テスト 提出物（プリント） 提出物（レポート） 実習評価（技能・出席等）	5 4 3 2 1
	8月・9月	① ②	食事摂取基準と食事計画 ライフステージと栄養計画 調理の基本	8	食事計画(AD) 乳児期から高齢期に至るまでの食事計画(ABD) 食品の特性と調理性、調理操作(ABCD)	A B C D	ライフステージごとの栄養計画が必要なことを理解し、それぞれの年齢に応じた献立作成ができる。(ABCD) 各年齢別食事摂取基準を理解する。(AD) 日本の食文化、世界の食文化に触れる。(ABCD) 調理実習を通して調理に関する専門的な知識と技術の習得を目指すとともに、各食品の調理上の特性を学ぶ。(ABCD)	調理実習 レポート プリント学習	提出物（プリント） 提出物（レポート） 実習評価（技能・出席等）	5 4 3 2 1
後期	10月・11月前半									5 4 3 2 1
	11月後半・12月									5 4 3 2 1
	1月									5 4 3 2 1